

今年度の発掘調査現場紹介

あおた 青田遺跡 (北蒲原郡加治川村金塚字青田985-1 ほか)

遺跡は江戸時代に干拓された旧紫雲寺潟(塩津潟)の湖底から見つかった縄文時代晩期終末(約2,500年前)の集落跡です。今年度は幅約40mと20mの二つの川跡に沿って多数の掘立柱建物の柱が見つかり、川を挟んで集落が営まれたと考えられます。川跡の中からはほぼ完全体の釜が、川岸の近くではドングリ(ナラガシワ)を多数集積した遺構が見つかりました。また、土坑の最下部に枝で固定された草材が敷かれ、上部からクリやクルミが出土したことから、貯蔵穴と思われるものも見つかりました。その他にも、深鉢形土器を逆さまにして埋めた埋設土器がまとまって見つかりました。おそらく、お墓であると考えられます。掘立柱建物と墓域の存在から、集落構造を解明する重要な手掛かりになると考えられます。

(松井 智)



ドングリ集積遺構



掘立柱建物の柱根群

みちばた 道端遺跡 (岩船郡荒川町南新保字道端97番地ほか)

道端遺跡の発掘調査は、日本海沿岸東北自動車道（日沿道）の荒川インターチェンジの建設に伴うもので、今年度の予定調査範囲は50m×50mです。遺跡は荒川町の西部に位置し、中条町の乙宝寺までは1km程です。本格的な調査は6月から始まりました。調査終了は10月末の予定です。現在、作業員40人体制で調査中です。古墳時代の遺物包含層は灰白色の粘土質で土が湿っていると柔らかいのですが、乾燥すると固くなり、掘削はかなり大変です。今のところ主な出土遺物は甕、器台、高杯などですが、遺構はまだ見つかっていません。（鈴木秀人）



発掘調査風景

くらのつぼ 蔵ノ坪遺跡 (北蒲原郡中条町舟戸字蔵ノ坪387-2ほか)



遺跡遠景（中央部が遺跡）

蔵ノ坪遺跡の発掘調査は国道7号中条黒川バイパス工事に伴うもので、今年度は昨年未調査部分1,360㎡を行い、7月中旬に調査完了しました。遺跡の性格は、昨年の調査で出土した木簡、墨書土器などの文字資料と建物などの遺構、立地環境から内水面に位置する平安時代の港ではないかと考えています。今回の調査では、柱間が2×2間の小屋のような建物2棟、並列する20条以上の溝状遺構群、その周辺を蛇行しながら流れていたと思われる川跡が見つかりました。川跡からは、土器や木製品が出土し、伐木で組んだ橋あるいは堰と思われる遺構も見つかりました。時期はいずれも9世紀前葉と考えられます。今後は、昨年の調査成果と合せて報告書を刊行する予定です。（飯坂盛泰）

いわくら 岩倉遺跡 (糸魚川市大字田伏字岩倉403-1ほか)

岩倉遺跡は、早川の河口左岸の山際沖積地に立地しています。過去の早川や姥川の氾濫で砂礫が堆積しているため遺構の確認は困難ですが、旧表土から1メートルほど掘り下げた地点で土坑などをいくつか確認しています。遺物は珠洲焼、青磁、瀬戸焼などのほか、富山で製作された越中瀬戸などの日用品が検出されています。その内容から15世紀から17世紀の年代を想定しています。また、湿地であることから、曲物、下駄、独楽、漆椀などの木製品も多く出土しています。他に周辺の田伏製鉄遺跡や田伏玉作遺跡の出土品との関連が高い鉄滓や石製紡錘車なども確認されています。調査から、糸魚川地区での中世後半から江戸時代前期の生活の一部を解明したいと考えています。（山本 肇）



竹製水道管の施設状況（江戸時代後半）

てらじ 寺地遺跡 (西頸城郡青海町大字寺地字大門1021-1 ほか)

寺地遺跡は、田海川左岸の砂丘及び沖積平野に広がり、一部は国指定史跡となっています。調査は北陸新幹線建設に伴うもので、6月末現在、全調査区域の3分の1を終了しましたが、出土した遺物から縄文時代中期、縄文時代晩期、室町時代、江戸時代にまたがっている事が分かってきました。丘陵地並びにその周辺の調査はほぼ終了しており、1間×2間の江戸時代の建物跡と縄文時代と室町時代の土坑が確認されています。また、縄文時代の土器・石器、室町時代の陶磁器(壺・甕・播鉢・灯明皿)・銭貨、江戸時代の陶磁器などを中心に数多くの遺物が出土しています。(佐藤敦史)



丘陵部の調査(松尾神社南側)



低湿地部分の調査風景

平成13年度発掘調査・整理作業予定

〔発掘調査〕

遺跡名	所在地	関連事業	主な時代(時期)	種別
青田遺跡	北蒲原郡加治川村大字金塚字青田	日本海沿岸東北自動車道	縄文	集落跡
蔵ノ坪遺跡	北蒲原郡中条町大字舟戸字蔵ノ坪	国道7号中条黒川バイパス	平安	内水面の港跡
道端遺跡	岩船郡荒川町大字南新保字道端	日本海沿岸東北自動車道	古墳	遺物散布地
正尺A遺跡	豊栄市大字葛塚字子辰高入	日本海沿岸東北自動車道	古墳	集落跡
岩倉遺跡	糸魚川市大字田伏字岩倉	国道8号糸魚川東バイパス	中世	集落跡
寺地遺跡	西頸城郡青海町大字寺地字大門	北陸新幹線	縄文・中世・近世	集落跡(加工所)

〔整理作業〕

遺跡名	所在地	関連事業	主な時代(時期)	種別
八反田遺跡	上越市大字寺分字寺田	北陸自動車道	縄文・平安・中世	集落跡
高畑遺跡	上越市大字岩木字高畑	北陸自動車道	中世	集落跡
黒田古墳群	上越市大字黒田字田ノ入	上信越自動車道	縄文・古墳	墓跡
小重遺跡	中頸城郡中郷村大字江口新田	国道18号改良工事	縄文・中世	集落跡・墓跡
奈良崎遺跡	三島郡和島村大字島崎字奈良崎	国道116号和島バイパス	弥生・古墳・中世	集落跡・城館跡
青田遺跡	北蒲原郡加治川村大字金塚字青田	日本海沿岸東北自動車道	縄文	集落跡

〔確認調査〕

日本海沿岸東北自動車道関係では、中条町と荒川町で試掘調査を行ないます。
 国道関係では、白根バイパス、六日町バイパスなど計6路線で試掘調査を行ないます。
 北陸新幹線関係では、板倉町と青海町で試掘調査を行ないます。

校外学習・出前授業の充実を目指して

体験実習や出前授業を本格的に取り入れて今年度で2年目となりますが、こうした活動内容も徐々に県内の学校へ知られるようになってきました。今年度も次ページの一覧表で示したように、4月から7月の1学期間で39校の小・中学校が校外学習で当センターを訪れ、その内の30校が体験実習を実施しています。引率された先生方へアンケート調査を行なったところ、校外学習で当センターを利用した理由の上位は、各種の体験実習ができる、土器や石器などの本物に触れる事ができる、専門職員の話の聞くことのできるの3点でした。また、出前授業については、こうした活動を知らなかった先生方の割合が81%に上ったものの、今後利用してみたいと考える割合も75%に達しており、潜在的な需要の多さが伺われます。ここでは、センターで実施している校外学習並びに出前授業について概要をお知らせしますので、多くの学校の利用をお待ちしています。

1 校外学習での利用方法

a 展示室の利用

年末年始以外は、9時～17時まで無料開放していますので、自由見学や課題学習等にご利用ください。展示内容は、旧石器時代から江戸時代までの通史的なもの、前年度発掘調査した出土品の速報です。

b 研修室の利用

床に座った場合で約80名を収容でき、ビデオ機器やOHP等も利用できます。ここでは引率者による授業並びに体験実習の場としても利用できます。

c 主な実習用具と留意点

火おこし用具20組と火種を受ける麻繊維

事前打ち合わせの時に、引率の先生方に火おこしの練習をしていただいています。

黒曜石で作った石器模造片適宜

石器で切る対象物（野菜、肉、魚等）と軍手は、各自でご用意ください。

煮炊き用の縄文土器模造数点と薪などの燃料材

ジャガイモ等をゆでて試食できますが、ゆでる食材は各自でご用意ください。

文様つけ実習用の粘土と土器に文様を施す用具

縄文原体、竹管、貝殻等を使って、当時の文様つけが体験できます。

土器作り

土器作りについては、実習時間が2～3時間確保でき、事前に学校で粘土紐作りの練習ができる場合にお受けしています。粘土は各自（学校）でご用意ください。



展示室での見学・説明



協力して火おこしに挑戦



真剣な表情での土器作り

縄文土器や石器などの実物

実際に触れて質感を確認したり、土器製作の見本にすることができます。

2 校外学習実施に際してのお願い

- ・校外学習の日程が固まりましたら、下記宛てまでご連絡ください。指定日時と場所を確保しますが、混み合う時期は日程変更をお願いする場合や、お受けできない場合もありますので、ご了承ください。
- ・実習を伴う校外学習では事前打ち合わせが必要ですので、実施の1～2週間前にセンターで打ち合わせを行ない、その後校外学習の依頼文を提出願います。
- ・実習を伴う校外学習の人数の上限は、一回につき80名(40名2班構成)です。人数を超える場合は、午前と午後、あるいは2日間に分けてのご利用をお願いします。
- ・校外学習は、社会科におけるカリキュラムの関係上、4月下旬から5月に集中する傾向があります。混雑する時期を避けての校外学習が可能かどうか検討いただければと思います。

3 出前授業について

長期的な指導計画の中で、専門家による授業が有効であると考えられる場合、事業団職員を学校へ派遣します。今年度は6月27日に鹿瀬町立日出谷小学校で第1回目の出前授業を行ないましたが、年間では5校程度の実施を考えています。

4 連絡先について

校外学習、出前授業などセンターの利用に関する問い合わせは、下記宛てまでご連絡をください。

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

資料担当・普及班

(担当 松縄・池田)

TEL 0250 - 25 - 3981



出前授業での煮炊き実習

校外学習実施校一覧(平成13年4月～7月)

番号	月	日	曜日	学 校 名	人数	番号	月	日	曜日	学 校 名	人数
1	4	20	金	新潟市立青山小学校	86	20	5	23	水	新津市立金津中学校	29
2	4	23	月	白根市立白根小学校	81	21	5	24	木	白根市立庄瀬小学校	34
3	4	24	火	新津市立新津第一小学校	101	22	5	24	木	新津市立結小学校	127
4	4	24	火	新潟市立宮浦中学校	5	23	5	25	金	新潟市立東石山中学校	12
5	4	25	水	笹神村立笹岡小学校	64	24	5	25	金	加茂市立加茂中学校	72
2	4	26	木	白根市立白根小学校	81	25	5	28	月	亀田町立亀田西小学校	134
6	5	1	火	水原町立水原小学校	143	26	5	29	火	白根市立大鷲小学校	40
7	5	7	月	新潟市立栄小学校	22	27	5	29	火	加茂市立葵中学校	129
8	5	8	火	新津市立金津小学校	102	28	5	31	木	県立はまぐみ養護学校	10
9	5	9	水	新潟市立上山小学校	110	29	6	1	金	新潟市立南万代小学校	66
10	5	9	水	新潟市立内野中学校	26	30	6	5	火	小須戸町立小須戸小学校	68
11	5	10	木	新潟市立山潟小学校	89	31	6	6	水	新津市立新津第一中学校	100
12	5	11	金	新潟市立江南小学校	102	32	6	11	月	新津市立阿賀小学校	38
13	5	14	月	小須戸町立矢代田小学校	49	33	6	12	火	新潟市立五十嵐小学校	144
14	5	15	火	新潟市立下山中学校	9	34	6	15	金	五泉市立五泉北中学校	7
15	5	15	火	新津市立新津第三小学校	75	35	6	21	木	新穂村立行谷小学校	4
15	5	16	水	新津市立新津第三小学校	73	36	6	21	木	新津市立小合小学校	22
16	5	16	水	新潟市立割野小学校	15	37	6	22	金	村松町立大蒲原小学校	25
17	5	17	木	新津市立市之瀬小学校	20	38	7	3	火	新潟市立山の下小学校	63
18	5	18	金	新潟市立藤見中学校	10	39	7	6	金	新津市立満日小学校	21
19	5	23	水	豊栄市立岡方第二小学校	26			合 計		2434名 (39校)	

『平成13年度発掘調査報告会』・『青田遺跡公開シンポジウム』のご案内

発掘調査で得られた情報を速やかに報告する「発掘調査報告会」と、縄文時代晩期（約2,500年前）の低湿地遺跡である青田遺跡の「公開シンポジウム」を下記日程により開催します。「青田遺跡」は平成11～13年にわたり本格的調査が実施され、土器・石器はもとより丸木舟・弓・櫂・柱根・壁材・糸玉といった木器・建築部材・漆製品・食物残渣などが多数出土し、全国的にも注目すべき成果を上げることができました。そこで、この貴重な成果をいち早く報告すると共に、考古学をはじめとした関係各分野の講演・発表・討論をまじえて「青田遺跡」の様相を明らかにしていきたいと考えていますので、皆様の参加をお待ちしております。

主催

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
新潟県教育委員会

開催期日及び会場

平成14年3月9日(土)・10日(日)
新潟テルサ(ホール) 入場無料
新潟市鐘木185-18(北陸自動車道新潟中央インター下車1分)

日程予定

3月9日(土)開場12:30

「平成13年度 発掘調査報告会」13:30～14:30

平成13年度の発掘調査現場を中心に、調査成果を発表する。

「青田遺跡公開シンポジウム」14:45～16:40

第1部「青田遺跡と縄文文化」

- ・青田遺跡発掘調査報告 荒川隆史(事業団調査員)
- ・基調講演 小林達雄(国学院大学)

3月10日(日)開場9:00

第2部「青田遺跡-縄文人の生活と環境-」9:30～12:10

発表者 高濱 信行(新潟大学)
鈴木 三男(東北大学)
宮本長二郎(東北芸術工科大学)
石川日出志(明治大学)
山田 昌久(東京都立大学)

「青田遺跡を語る」13:30～15:50

参加者:高濱信行、鈴木三男、宮本長二郎
石川日出志、山田昌久、小林達雄
岡村道雄(文化庁)三上 弥(NHK)
荒川隆史(事業団調査員)

当日の内容・進行時間については若干の変更が予想されます。
詳しくは今後の報道・事業団ホームページ等をご覧ください。

問い合わせ先

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
新潟県新津市大字金津93-1
TEL0250-25-3981
(担当 寺崎・鈴木)
ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~n-maibun/>



青田遺跡 丸木弓



青田遺跡 木製櫂

埋文コラム 『発掘から見えてきたトイレ事情』

土壌分析からわかる縄文の食料事情

三内丸山遺跡（縄文時代前期中頃～中期末）では、廃棄ブロック（当時のごみ捨て場）の土を採取し、土壌分析を行っています。その結果、寄生虫卵が高密度で検出されている層がみつき、この寄生虫の種類から人の排泄物が堆積したものと判断されました。そこから、三内丸山人の生活を予想すると...

寄生虫による腹痛などの消化器症状に悩まされていた。

寄生虫に汚染されやすい野草か野菜、または水を摂取していた。

沿岸魚特有の寄生虫の検出がみられたことから、海水魚を食べていた。

古代のトイレは水洗？

藤原京（694～710）右京九条四坊の発掘現場で、当時の道路側溝の流水を宅地内に引き込み、排泄物を水と共に流し出す弧状の遺構が確認されました。土壌分析を行ったところ、比較的高い密度で寄生虫卵がみつき、これが水洗式のトイレであるということが判明しました。



水洗式トイレ遺構

（掲載許可 檀原市教育委員会）



水洗式トイレ復元模型

（掲載許可 大田区立郷土博物館）

古代のトイレトーパー...^{ちゅうぎ} 簣木

昔は紙が大変貴重であったため、木や竹のへらを使って拭いていました。これらの木や竹のへらを「簣木」と呼んでいます。藤原京のトイレ以降、各地のトイレ遺構で簣木がともなって出土しています。農村部を中心に、昭和初期まで簣木を使用していた地域もあるようです。



藤原京で出土した簣木

（掲載許可 檀原市教育委員会）

新潟県糸魚川市清崎城跡のトイレ状遺構

清崎城跡では、濠跡・門の基礎に係わる柱根・井戸跡・廃棄土坑・トイレ状遺構と考えられる土坑などが検出されています。

「トイレ状遺構」（近世）では、土坑底面に桶の下部が残存し、その中にウリとみられる種子が多量に堆積しているという見解から、この土の土壌分析を行いました。（但し、寄生虫卵の分析は行っていません。）その結果、ウリ科メロン類・バラ科キイチゴ属・ブドウ科ブドウ属・グミ科グミ属の種子類などが検出され、当時の植生や食生活を、うかがうことができます。また、この土は生物起源とされるリン酸の検出が顕著であり、遺構の特徴などからも便所の可能性が高いと考えられます。

引用・参考文献

「企画展 食と考古学 -食いしんぼうの時間旅行-」 福島県立博物館 2001

「考古学トイレ考」 大田区立郷土博物館 1996

「トイレ遺構の総合的研究」 奈良国立文化財研究所 黒崎直編 1998

「新潟県の考古学」 新潟県考古学会 1999

県内の遺跡・遺物33

むらじり
村尻遺跡出土遺物（平成2年 県指定）

遺跡所在地：新発田市大字下寺内字村尻ほか

村尻遺跡は、櫛形山脈と二王子岳山麓にはさまれた谷底平野の微高地にあります。県営圃場整備事業に伴い、昭和55年、56年に発掘調査が行われ、縄文時代後期の集落跡や弥生時代中期の墓址群をはじめ多くの遺物が見つかりました。中でも特徴的な遺物は、弥生時代の墓址の一つである12号土坑より出土した弥生式土器の「ヒト形土器」と「壺形土器」で、県の考古資料に指定されています。

ヒト形土器は高さ、45.3cmで正面、胴上部にS字、逆S字状の色調鮮やかな文様が施され、その他の文様もいづれの方から見ても左右対称に配されています。形状は人を模しながらも、脚部が省略されて平底をなし、頭部も省略されて首の部分が口縁部を形成しています。内部は空洞であり、容器として作られたと考えられます。壺形土器は高さ66.5cmの長胴で、縄文の上に赤彩が横方向に帯状に巡らされており、一部は工字状をなしています。この2点の土器は、焼けた人骨と共に土坑の壁よりから直立した状態で出土しました。こうした状況から、これらの土器は亡くなった人を一度骨にしてから納めるといった再葬のための容骨器として利用されたものと考えられます。



ヒト形土器（写真提供 新発田市教育委員会）



壺形土器（写真提供 新発田市教育委員会）

埋文にいがたNo. 35

発行（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新津市金津93番地1 e-mail:maibun@coral.ocn.ne.jp

TEL (0250) 25-3981 FAX (0250) 25-3986

印刷（株）文久堂